

2つの革命で生まれた イギリス議会政治



17世紀

早くから市民階級が形成されていたイギリスでは、2つの革命をへて、議会政治が確立した。

**ピューリタンによる革命は
クロムウェルの独裁で終わる**

17世紀のイギリスでは、独立自営農民（ヨーマン）やジェントリ（郷紳）が市民階級を形成し、議会に進出していった。彼らの多くはプロテスタント（P.91参照）のピューリタン（清教徒）であったが、エリザベス1世の死後ステュアート朝を開いたジェームズ1世とその子チャールズ1世は議会对軽視し、ピューリタンを弾圧。これに反発した議会は権利請願を提出するが、王は議会を解散した。その後スコットランドで起きた反乱に対する戦費調達のため王が議会

**無血革命に成功し、
議会制民主主義を確立**

を開くと、議会は王党派と議会派に分かれて内乱状態になった。議会派は長老派、独立派などに分かれたが、徹底抗戦を主張する独立派のクロムウェルがネーズビーの戦いで王党派軍を破り、国王を処刑。ピューリタン革命を成し遂げた。クロムウェルは王党派の強いアイルランドなどを征服。議会を解散し、護国卿となつて独裁政治を行った。しかしその死後、長老派が王党派と結んで前王の子チャールズ2世を迎え、王政に復古した。

チャールズ2世と次のジェームズ2世は親カトリック政策をとつたため、議会に誕生していたトーリー党（王権擁護派）とウィッグ党（王権制限派）が協力して、ジェームズ2世の娘メアリと、その夫のオランダ統領ウイレムに援助を要請。ウイレムが軍を率いてイギリスに上陸すると王は亡命し、無血革命（名誉革命）が成立した。ウイレム夫妻はウイリアム3世、メアリ2世として共同で王位に就くと、議会の権利宣言を承認して権利章典を制定。これにより立憲王政が確立した。

その後、メアリ2世の妹アン女王が死んでステュアート朝が絶えると、ジェームズ1世の血を引くドイツのハノーヴァー選帝侯がジョージ1世として即位した。しかし英語を解さないジョージ1世は政治に無関心だったため、議会の多数派が内閣を形成して政治を行うようになった。こうして1721年、ウィッグ党のウォルポールによって、内閣が国王ではなく議会に対して責任を負う責任内閣制が確立。「王は君臨すれども統治せず」という伝統が生まれたのである。

ピューリタン革命から責任内閣制の誕生へ（イギリス）

クロムウェル軍の アイルランド征服

アイルランド人の土地を没収し、虐殺を行う。現在も続くアイルランド問題（P.106）の発端。

スコットランド王国
・エディンバラ

アイルランド
ダブリン

イングランド王国
（イギリス）

ロンドン

1649年～51年
アイルランド征服
土地没収・虐殺

1620年
ピューリタンの
北米移住
（ピルグリム・
ファーザーズ）

議会

ピューリタンが多数

ピューリタン
弾圧

君主
ジェームズ1世
王権神授説を唱える

絶対王政の
専制政治

チャールズ1世
「権利請願」を無視し、
議会開かず

11年間の休会

1628年
権利請願

1642年～49年
ピューリタン革命
王党派と議会派の内戦

クロムウェルの鉄騎隊が勝利 → チャールズ1世処刑

共和政の開始

空位

1653年～58年
クロムウェル独裁
ピューリタンの
禁欲の強制

1652年～54年
第1次英蘭戦争

国民の反発

1660年
王政復古

先王の子チャールズ2世が即位

ジェームズ2世
カトリックと絶対王政の復活を企図

トーリー党（のちの保守党）
ウィッグ党（のちの自由党）
が成立

1688年
名誉革命
（無血革命）

議会在オランダ統領
ウイレム夫妻を招く

「権利章典」制定

ジェームズ2世亡命

立憲王政の確立

1707年 スコットランドと合同
大ブリテン王国 誕生

1721年
責任（議員）内閣制成立
内閣は国王にではなく、
議会に対して責任を負う

ジョージ1世

「王は君臨すれども
統治せず」

Key
Word

ジェントリ

近世以降のイギリスの支配階層。身分は平民で、郷紳（きょうしん）と訳される。16世紀前半、輸出品として毛織物の需要が増したイギリスの農村では、耕地を牧場に転換する囲いこみ（エンクロージャー）が行われ、羊毛生産などで富を蓄えた地主層、すなわちジェントリが台頭した。ジェントリは議会へ進出し、近代イギリスの政治・社会を支える中心的な存在になっていった。